府政記者室　南丹・中丹・丹後広域振興局　同時資料配付

大野ダムの標高１５０ｍを目標とする事前放流の運用開始について

令和３年５月２５日
京都府建設交通部河川課
大野ダム総合管理事務所

大野ダムでは６月１日より洪水が予測される場合、従来より５ｍ低い標高１５０ｍを目標とする事前放流の運用を開始します。

なお、例年よりも早い梅雨入りとなったことを踏まえ、大雨が予想される場合には目標水位１５０ｍの運用を前倒しして実施することとしておりますのでお知らせします。

○事前放流の概要

台風等による大雨が予測される場合に、余裕のある堆砂容量を有効活用して事前放流を行うこととしており、令和２年８月２５日から、最低水位である標高１５５ｍから２ｍ下げた標高１５３ｍを目標とする事前放流の暫定運用を実施しております。

今回、更に３ｍ下げた標高１５０ｍを目標とする本格運用を令和３年６月１日より開始することとしました。

なお、例年よりも早い梅雨入りを踏まえ、大雨が予測される場合には本格運用を前倒しして実施することとします。

また、事前放流は、降雨予測に基づき実施（注１）することとしており、気象状況によっては実施しない場合もあります。

○事前放流による効果

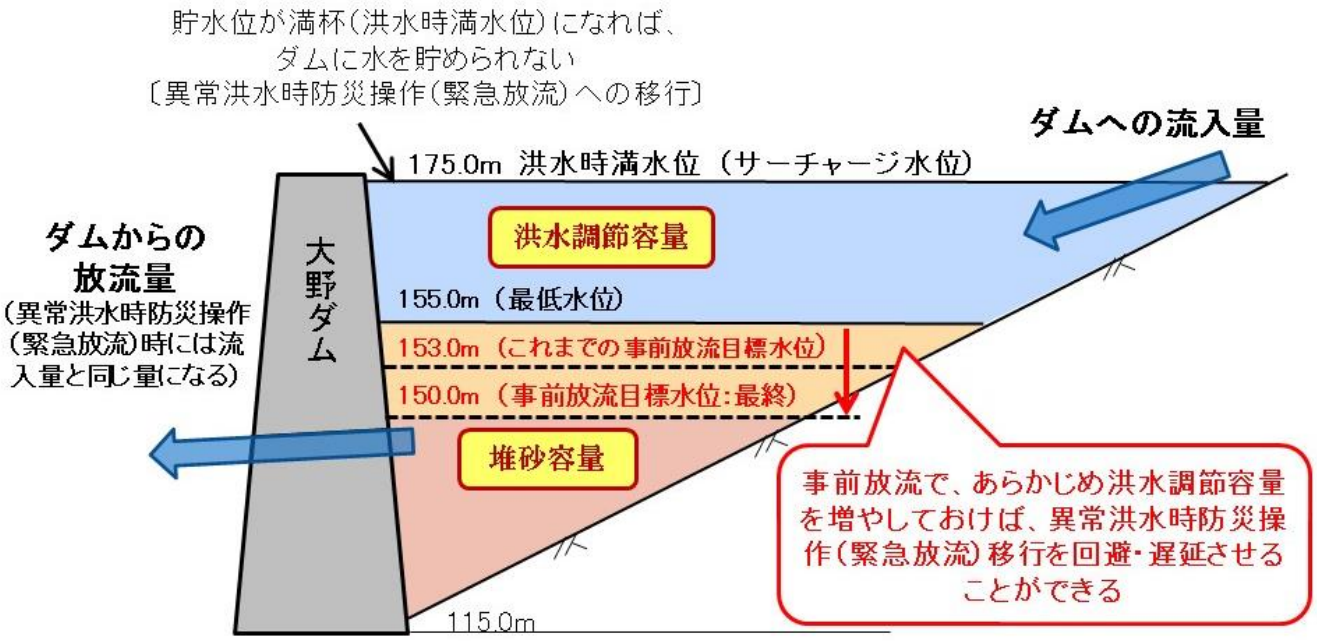
現行の洪水調節容量２，１３２万ｍ^{3}に加え、約１８１万ｍ^3（現行＋８％）の容量を確保して、異常洪水時防災操作（緊急放流）（注２）移行のリスクを低減し、下流域の治水安全度の向上を図ります。

○取組の経緯

平成３１年３月	「京都府大野ダムの洪水調節機能と情報の充実に向けた検討会」において「事前放流目標水位の暫定的な引き下げ」について検討
令和元年５月	「平成３０年度災害対応の総合的な検証」に位置づけ（のちに京都府防災計画、京都府総合計画にも位置づけ）
令和元年５月	最低水位から１ｍ下げた標高１５４ｍまで水位を下げる実証実験を実施
令和元年１０月	最低水位から２ｍ下げた標高１５３ｍまで水位を下げる実証実験を実施
令和２年５月２９日	由良川水系治水協定の締結
令和２年８月２５日～	目標水位標高１５３ｍ運用開始
令和２年１０月	最低水位から５ｍ下げた標高１５０ｍまで水位を下げる実証実験を実施
令和３年６月１日～	目標水位標高１５０ｍ運用開始（大雨が予測される場合は、前倒しで実施）

（裏面あり）

【事前放流のイメージ図】



（事前放流により確保可能な容量）

洪水調節容量　２，１３２万ｍ３

目標水位標高１５０ｍ（５ｍ低下）　約１８１万ｍ３（計　２，３１３万ｍ３）

（注１）次のいずれかに該当する場合に実施します。

①京都地方気象台が発表する情報で、大野ダム流域に影響を及ぼす恐れのある台風が北緯３０度を超え、かつ京都府北部で２４時間降雨量が１５０ミリメートル以上となることが予測される場合

②京都地方気象台が発表する情報で、京都府北部で２４時間降雨量が２００ミリメートル以上となることが予測される場合

※　由良川下流（綾部、福知山地点）の水位が高い場合は事前放流を実施しない

（注２）異常洪水時防災操作（緊急放流）

計画を超える規模の出水によりダムの洪水調節容量を使い切る可能性が生じた場合、放流量を徐々に増加させ、流入量と同程度を放流する操作

問い合わせ先

・京都府河川課総合治水係　　電話　０７５－４１４－５２８８

・京都府大野ダム総合管理事務所　電話　０７７１－７５－０１４３